

今週の為替相場見通し(2020年4月20日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		106.93 ~ 108.56	107.58	106.00 ~ 108.50
ユーロ	(ドル)		1.0812 ~ 1.0994	1.0876	1.0800 ~ 1.1000
(1ユーロ=)	(円)		116.56 ~ 118.45	116.99	116.00 ~ 119.00
英ポンド	(ドル)		1.2409 ~ 1.2648	1.2505	1.2400 ~ 1.2600
(1英ポンド=)	(円)	*	133.65 ~ 135.50	134.40	133.50 ~ 136.00
豪ドル	(ドル)		0.6264 ~ 0.6445	0.6361	0.6260 ~ 0.6450
(1豪ドル=)	(円)	*	67.58 ~ 69.26	68.45	67.50 ~ 69.25

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 玉井 美季子

(1)今週の予想レンジ: 106.00 ~ 108.50 円

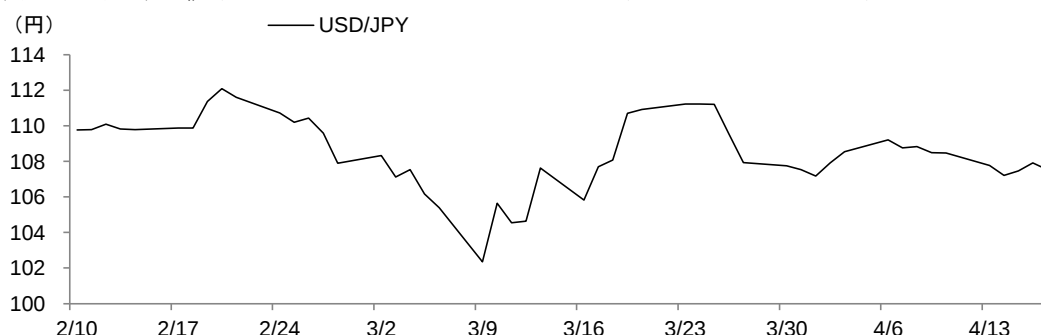
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル円相場は週半ばに安値をつける展開。週初13日に108円台前半でオープンしたドル円は、週末にOPECプラスで原油原産合意がなされるも原油価格が下落し、日経平均株価が軟調に推移する中、じり安の展開が続いた。その後の米株の下げ幅拡大もあいまって、一時107円台半ばまで下落した。14日は、日経平均株価が堅調に推移する中、ドル円は狭いレンジでの推移。その後、米国時間に米金利が徐々に下落する動きにドル円は一時107円を下抜けた。15日は、オープン直後に週安値の106.93円を記録。その後は日本株が下げ止まったほか、米3月小売売上高や米4月NY連銀製造業指数が予想以上の落ち込みを見せると、リスクオフのドル買いが進み、一時107円台後半まで上昇した。16日は原油安の下、株安と金利低下が進行したことで、再び有事のドル買いが進み、108円を上抜けた。しかし、落ち込みが目立つ米国経済指標が嫌気され、米株も軟調に推移すると徐々にドル売りが進み、一時107円台前半まで下落した。17日は新型コロナウイルスの治療薬への期待感からリスクオンとなり108円を上抜けたが、その後は週末を控え取引が控えられる中で、107円台での推移となった。

今週のドル円は上値の重い展開を予想する。新型コロナウイルスについては欧米で感染拡大ペースの鈍化が見られ、米国ではトランプ大統領が経済活動再開についての指針を発表する等、経済活動再開への期待が高まっている。また一部で治療薬についての期待も高まっている。ただ、経済活動は再開できてもワクチンができるまでは限定的なものに留まると考えられ楽観視できないであろう。また米国では第一四半期の決算シーズンを迎えているほか、先週発表された経済指標は大幅に悪化しており改めて新型コロナウイルスによる影響が懸念されている。原油価格についても18年ぶりの安値から回復できておらず、原油価格上昇の糸口となる材料も見当たらない。リスクオフムード継続の中、ドルも円も買われやすくドル円は方向感に乏しい推移となりそうだが、リスク資産に買いが入らない中ではドル円も上値の重い展開となるのではないかと。日本については緊急事態宣言が全国に拡大され、感染拡大もこれからピークを迎えると考えられるため、所謂日本売りの円安の可能性には注意が必要だが、日本株安の中では可能性は低いと考える。

(3)先週までの相場の推移

先週(4/13~4/17)の値動き: 安値 106.93 円 高値 108.56 円 終値 107.58 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 高村 尚史

(1) 今週の予想レンジ: 1.0800 ~ 1.1000 116.00 ~ 119.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は週後半にかけて下落する展開。週初13日に1.09台前半でオープンしたユーロ/ドルは、イースター休暇で取引参加者が少ない中、米株安を背景に下落したユーロ/円に連れられ、一時1.09を割り込んだ。14日は、米金利低下を受けてドル売りが優勢となると、EU圏内で新型コロナウイルスの感染拡大ピークが過ぎたとの期待感にも後押しされてユーロ/ドルは底堅く推移し、一時週高値の1.0986まで上昇した。15日は原油価格が下落する中、リスク回避的なドル買いが優勢となり、ユーロ/ドルは1.08台半ばまで反落。しかし米国経済指標が低調であったことや、原油価格が下げ止まったことを受けて1.09台前半までユーロが買い戻された。16日は、リスクオフ時のドル買いが優勢で、ユーロ/ドルは上値の重い展開となると、欧州時間には1.08台前半まで下落。その後17日アジア時間にかけて買い戻しが入り、欧州時間には原油価格下落を受けたドル買いに上値を抑えられる場面が見られたものの、米金利低下によるドル売りが優勢になるとユーロ/ドルは水準を戻して1.08台後半で越週している。

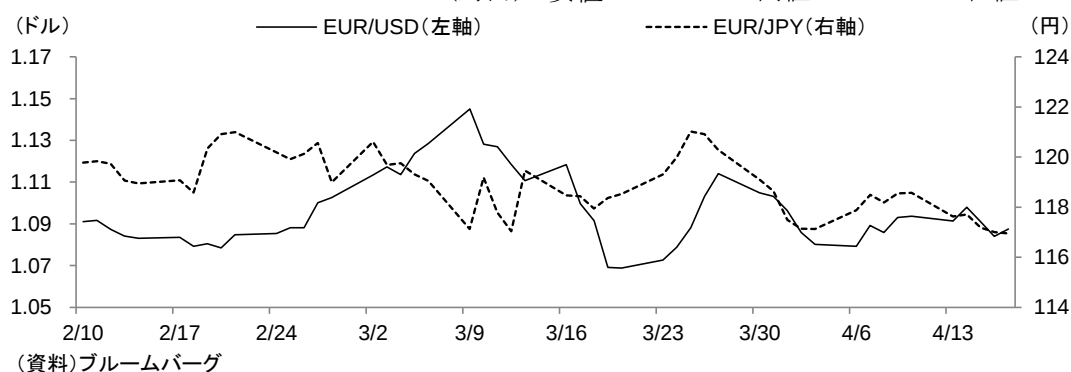
今週のユーロ/ドルは小確りとした展開を予想する。新型コロナウイルスの感染は世界中で引き続き拡大しているが、それを懸念した株式市場の売りや、「非常時のドル買い」は3月下旬でピークを迎えた。原油価格の下落時を含めたリスクオフの局面では依然としてドル買いが優勢となる場面が見られるものの、次第にリスク回避的なドル買いは弱まっていくと見ている。中期的に見るとロックダウン解除後の新型コロナウイルスの第二波などを警戒する必要があるが、短期的には米国と比較して欧州圏における感染者増加が先んじて落ち着きが見られ始めており、ロックダウン解除を検討する報道も聞こえてくる。短期的にはユーロ/ドルは小確りとした展開を想定したい。ただし今週は23日(木)に欧州圏・独・仏PMIが発表予定で、前月の数字がかなり悪かったこともあって今回もかなり悲観的な内容が予想されている。低調な内容が出てくるのが織り込み済とは見られるものの、ユーロの上値は限定的となるだろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/13~4/17)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0812 高値 1.0994 終値 1.0876

(対円) 安値 116.56 高値 118.45 終値 116.99



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.2400 ~ 1.2600 133.50 ~ 136.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、方向感に乏しいまま、主要通貨に対してまちまちな値動き。対ドルではじり高先行から、反落、軟調気味の横這いへと推移し、週を振り返って小幅ながら水準を切り上げた。対円、対ユーロでは方向感を欠いた上下動に終始し、振り返って、対円では小幅安、対ユーロでは小幅高に終わった。欧米主要市場の連休明け（英と大陸欧州の主要市場は10～13日と4連休、北米市場は10～12日と3連休）で、通貨市場全般の動意そのものが乏しく、最も顕著な値動きはドル安の先行とその反発と言えただろう。週明け13日から14日に掛けてはドル全面安、その後15日に急反発という流れだが、残念ながら、その背景ははっきりしなかった。米財務省と米連銀による空前の流動性供給策（最大2.5兆ドル/9日発表）が「ドル需給の逼迫を緩和する」との思惑がドル安を招いたとの解釈に違和感はなかったものの、15日以降のドル反発のきっかけがわからなかった。同日に前後した大手米銀の決算発表が注目を集めたのは事実だが、決算内容とドル安に因果関係があったようには感じられなかった。英要因では、英予算責任局（OBR）が、14日、英GDPが4～6月期に35%落ち込む可能性を示唆、ペイリー英中銀総裁がその予想を「非現実的とは言えない」と述べたのが目を引いたが、ポンドが明確な反応を示したとは言えなかった。その他、英からは、新型コロナウイルスに罹患し、一時は集中治療室（ICU）に入っていたジョンソン英首相の退院（12日）、EUとの将来関係交渉再開（15日）、外出禁止（ロックダウン）の3週間延長（16日）、首相府筋が移行期間延長を拒絶したとの現地報（17日）などが聞かれたが、ポンドが材料視した様子は、やはり明確には読み取れなかった。

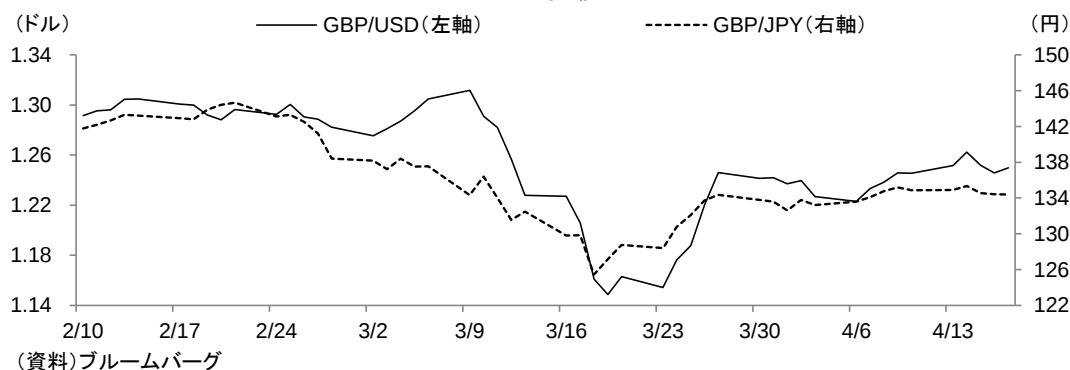
今週の英ポンド相場は、現行水準における膠着を予想。9日までに対円で直近高値を明確に上抜けたのに続いて、ポンドは、対ドル、対ユーロでもそれぞれ13日に直近高値を明確に上抜けた（高値自体はそれぞれ10日、9日に小幅更新していたものの）。しかし、対円を含め、上値余地を試しに買いが入るでもなく、達成感から売りを見るでもなく、ポンドはその後もだらだらと横這い推移を続けた。直近高値と言っても、僅か数週間の値幅の中での話だが、それでもポンド相場の動意の欠如を物語る値動きだったと言えるのではないかな。また、14日の英予算責任局の悲観的な成長見通しや、17日の移行期間延長拒絶観測などは、値動きから判断して、少なからずポンド売り材料視された可能性も考えられた。しかし、その売りは小幅、かつ短時間で、それぞれすぐに元の水準を回復してしまった。こうした値動きは、仮に英経済が大幅に落ち込むのだとしたら、その他の国の経済も同様に、或いはそれ以上に落ち込まないとは限らないと言った警戒感や、目先のコロナ動向の方が、EU離脱に伴う将来の混乱よりも圧倒的に重要という共通認識の存在を裏付けるのではないかな。つまり、現時点における金融通貨市場の最大にして、ほとんど唯一の材料は、その先行きが全く読めない（疫病の被害だけでなく、その対策や、その効果なども含めた）コロナ動向ということであろう。このような状況で、通貨市場が、大きく水準を切り替えたり、明確な方向感を示したりする展開は、余程重要な固有の要因でもない限り考え難い。今週は、21日（火）に英12～2月失業率（ILO基準）、22日（水）に英3月CPI、24日（金）に英3月小売売上高などの主要英経済指標の発表が並び、とりわけ、コロナ対策の外出制限などが本格化した3月の数字は興味深い、「重要な固有の要因」には該当しないだろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週（4/13～4/17）の値動き:

(対ドル) 安値 1.2409 高値 1.2648 終値 1.2505

(対円) 安値 133.65 高値 135.50 終値 134.40



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 川口 志保

(1) 今週の予想レンジ: 0.6260 ~ 0.6450 67.50 ~ 69.25 円

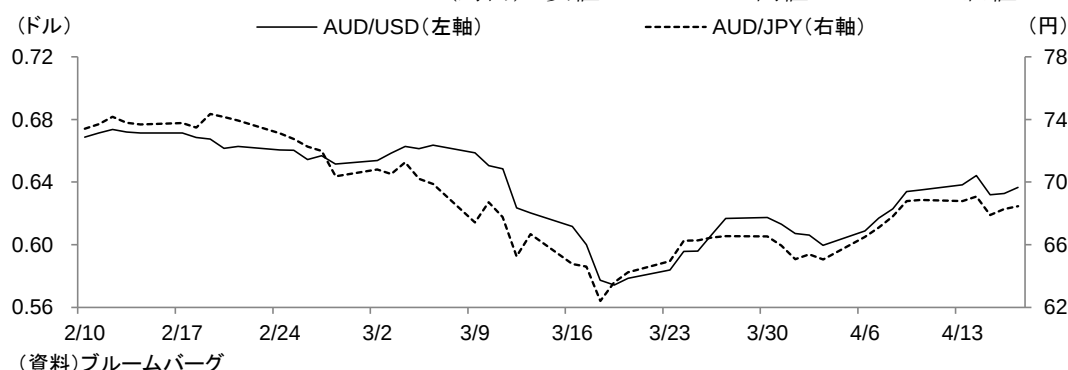
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルレンジは0.62半ばから0.64半ばに留まった。豪ドルは4月に入り、ややボラティリティが落ちてきていたものの、週中で下げ止まった。13日(月)は各国イースターマンデーで休場の中、NY時間は石油減産拡大期待から原油先物が、また“Fly to Quality”の流れから金価格が上昇。それらと共に商品通貨が対ドルで上昇。豪ドルは0.64台に乗せ、14日(火)は前日NYの流れを引き継ぎドル売りが継続。これまでドル需要逼迫への警戒感からドル買いが強まっていたが、FRBにより流動性供給が強化されていることやCOVID-19の感染拡大ペース失速の兆しが幾らかでてきていることを受け、ドル需要が緩和されている模様。株価が上昇するなか豪ドルに買戻しが入り、一日を通して15主要通貨の中では対ドルで最上昇通貨となった。15日(水)は再びリスク回避が強まり、ドル買いへ。豪ドルはシドニー朝、0.6440でスタートしたもののロンドン入りにかけて0.64を割り、ロンドン時間はキツイ角度をつけて0.63割れ。1Month 25RRもA\$putスプレッド拡大を見せた。NY時間では米株が大幅反落を見せ景気懸念が高まる中、米小売りやNY連銀製造業などの経済指標も悪化を見せると、ややドル売りに反転。豪ドルは0.6285近辺から0.63半ばにかけて一旦戻したものの長くは続かず、翌朝シドニーでは0.63ちょうど近辺まで下落。AUD/JPYも豪ドルに引っ張られる形となり、69.10から67台後半への推移となった。16日(木)の豪ドルはアジア時間を通して0.6265-0.6335レンジで右往左往し、NY引けにかけてドル売りが優勢となると0.63台後半まで上昇した。昨日の豪雇用統計は新型コロナウイルスの影響で悪化が予想されていたものの、失業率は前回より0.1ポイントのみ悪化の5.2%となるなど、悪化度は予想を下回った。数字発表後は0.6285→0.6310まで上昇も、滞空時間は10分程。即下値を探り始め、0.6270を割った。NY時間では経済指標が軒並み悪化した内容となったものの、トランプ大統領の米経済再開指針発表を好感し、米株は上昇。引けにかけてはリスクオンの流れにのって豪ドルもレンジ上限の0.6330近辺まで戻した。17日(金)の豪ドルはシドニー早朝は0.6330近辺から0.6380近辺まで上昇していたが、ロンドン入り後は原油先物が急落し始めると豪ドルも0.6315近くまで下落。その後は新型コロナウイルス感染拡大予防措置として停止していた経済活動に再開の動きが一部で出始めてきたことや、某製薬会社の治療薬が新型コロナ患者の治療に効果がみられたと報じられたことなどから欧州株・米株が戻し始めると、再度0.63台後半まで上昇した。これまでの市場におけるテンションが幾分か和らいだことで「ドル需給逼迫懸念でのドル買い」の巻き戻された形となった。

今週は豪州では21日(火)に4月のRBA会合議事録の発表、RBA ロウ総裁のスピーチが予定されている。新会計年度に入り、ボラティリティは若干落ちてきてはいるものの、依然値動きは荒い。先行きは依然不透明ではあるものの全般的に世界各国で新感染者数の増加ペースが緩やかになって来ていることや新型コロナウイルス治療薬の治験で効果が出ているとの報道等から、これまでの悲観的フローの巻き戻しが今後でてくるものと期待する。豪州での経済活動再開やロックダウン解除の目途は依然たっていないが、1日1日目まぐるしく変化する市場ムードと荒い値動きには引き続き注意したい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(4/13~4/17)の値動き: (対ドル) 安値 0.6264 高値 0.6445 終値 0.6361
(対円) 安値 67.58 高値 69.26 終値 68.45



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。